

# がんばってます神戸の農業

No.14 平野町

多彩な農産物の生産が行われ、多様な農村地域がある神戸市の農業委員の地元を順次紹介していきます。

今回は神戸市西区の平野町と、そこでがんばっている農家さんをご紹介します。

## ○平野町

明石川流域に広がる平野部と温暖な気候に恵まれて、古くから稲作を中心とする農業を主産業としてきましたが、圃場整備にも早くから積極的に取り組んできました。近年では優良なワイン用のブドウを栽培するなど、常に時代を先取りしています。また、春日神社の拝殿・本堂などの市指定文化財や遺跡も多く見られます。江戸時代に水不足を解消するために造られた林崎疎水や緑豊かな田園風景も、平野町の誇る魅力・資源の一つです。

## ○がんばる農業者 ふじた しゅうへい 藤田 修平さん

平野町で農業を始めて今年で6年目を迎えた藤田さん  
農業に対する考え方やこだわり等について伺いました。

—農業の楽しさ・難しさは？

私は、就農前は医療機器メーカーに勤務しており、その際の経験を活かし、日照量・風速・温度・湿度等が計測できる機器を導入のうえ、データに基づいた生育管理を行っています。結果、現在の収量は、就農当初に比べ1.5倍程に増加しました。

農業を営んでいると、良い商品を生産しているのに値段がつかないことがあるというもどかしさや、失敗した時のダメージが大きい面もありますが、基本的には、投資すればその分儲かる産業だと考えています。

—農業に対する考え方やこだわりは？

例えば、医療現場の場合、「症状の確認→原因の究明→適切な薬の開発」といった様に、体系立った処置を行いますが、農業ではそういったサイクルが曖昧になりがちです。つまり、やり方によってはまだまだ伸びしろがあるという意味では、これはチャンスだと思います。

農業者として、地域の伝統や文化を守っていく意識は大切にしていける必要がありますが、新しい視点での試行錯誤も必要だと思います。規模拡大に向け、学会や海外等で共有されている技術・ノウハウ等は、これからも積極的に活用していきたいですね。

—これからの農業経営の展望は？

いずれは、ISOやGAP等の認証取得も検討しています。海外から輸入されてくる商品が増えている昨今、これからの取引に必要なこういった最低条件をクリアしていなければ、他の競合する商品に対抗していきません。農業を、我々の子供の世代につないでいくためにも、こういった条件を整えることで、20年後、30年後を見据えた農業経営を展開していきたいと考えています。

一方で、国内、特に加工業界では、需要量に対して供給量が追いついていないという現状があり、国内にもまだ十分なマーケットがあると思います。今後は、トマトの生産規模を拡大し、より質の良い農産物をお客様に提供していきたいです。



~Profile~

1983年7月生まれ。2012年より農業経営を開始。主な栽培品目はトマト。



日々、ハウス内の各種条件データを収集し、生育管理に活用している